

絵を描くことが大好き！

貝賀音哉君（下町1区）

第2回ミルクの国とちぎ小学生絵画コンクールで、見事最優秀賞に輝いた貝賀音哉君（上三川小3年）に話を伺いました。

このコンクールは、小学校の夏休みの宿題の1つとして制作し、県内の多くの小学生から応募され、審査されました。夏休みの宿題で絵を書くものは20種類以上ありましたが、貝賀くんは、「今までなかった種類のものでしたので、挑戦してみたかった」と、このコンクールを選んだようです。

「絵を描くことが大好き」と話す貝賀君は、小学校に入学し



今月の輝ける星

これから今までに授業で描いた絵や交通安全絵画コンクールなど様々な賞に輝いた経歴を持っています。両親は、「暇があれば絵を描いています。今回も自分で考えて、コツコツやってきました。」と話していました。

今回受賞した絵を見ますと、大きな牛と牧場の様子が、切り絵で鮮やかに描かれています。描いた時のことを聞いてみると、「今までに見たことのある牛を思い出したり、本を見て描いていきました。切り絵にしたのは親に相談して決めました。」と描いた時のことを思い出しながら話してくれました。制作には約20日かかり、何度も失敗しては描き直し、完成させたそうです。完成した時は、「自分なりに満足できる作品ができた」と思ったそうです。今回受賞した作品の絵で、コンクールの主催者がランチョンマットを制作し、4月に入学する県内の小学1年生に配布されるそうです。貝賀君は、「最優秀賞と聞いた時やランチョンマットになると聞いた時は、本当にビックリしました。」と驚きながらも嬉しそうでした。今後は、いろいろな絵に挑戦しながら、サッカーも頑張つて将来は「サッカー選手になりたい」と話す元氣な少年でした。

広報紙で見る上三川町50年

1月号の表紙

皆さんは、様々な雑誌の表紙を見た時、どんな感想を持ちますか。書店に並ぶ雑誌には、いかにこの雑誌を買ってもらおうかと、色づかいや文字の大きさ等いろいろ工夫されています。その中の一つに写真があります。写真には、時の人や事件事故の写真等の中から、インパクトのある、この1枚というものが選ばれ掲載されていることでしょう。

広報紙は書店に並ぶものではないので、表紙の扱いも少し違います。広報紙では、地域の情報誌として季節感を大切に、多くの住民の皆さんに登場していただくよう選定されています。中でも1月号の写真には、新しい1年の始まりということで毎年気をつかいます。

季節感を考えるならば、お正月の様子を掲載したいところですが、現在は1日発行のため、撮影が間に合いません。そこで、前もって撮影できる干支や、12月の行事が選ばれることが多いのです。昭和50年頃までは、毎月1日発行ではなく、10日、15日、20日発行という時期もありました。その頃の1月の表紙を見てみると、白鷺神社での初詣の様子を掲載されたものがありました。



昭和45年1月20日号
初詣で賑わう白鷺神社の様子が掲載されました